

シンポジウム

肉用牛飼養の現況と行政上の問題点

清水 秀 三（北海道農務部畜産課）

1. 肉用牛飼養の現況

(1) 飼養戸数

ア. 肉用牛の飼養戸数は、49年をピークに逐年減少（年率4%）の傾向にあり、57年には5,800戸となっている。

イ. 専業経営は12%で、大半が稲作・酪農及び畑作との複合経営となっている。

ウ. 乳用種経営が55%を占めており、その68%が哺育育成経営で、肉専用種経営の65%が繁殖経営となっている。

(2) 飼養頭数

ア. 飼養頭数は、乳用種を主体に増加（年率8.1%）し、216,000頭と全国の9.1%を占めており、このうち乳用種が71%となっている。

イ. 肉専用種の品種別割合は、黒毛和種が70%、外国種が15%、残りが日本短角種・褐毛和種等となっている。

(3) 飼養規模

ア. 1戸当たり飼養頭数は、37.5頭（全国7.0頭）で、50頭以上の階層が戸数で13%、頭数で75%を占めている。

イ. 特に乳用種経営の規模拡大が顕著であり、また道東4支庁での飼養頭数が全道の64%を占めている。

(4) 道内の肥育仕向け率

道内生産牛のうち道内で肥育に仕向けられているのは、30～35%程度と推定される。

(5) 肉用牛の改良

ア. 人工授精の普及率は府県に比べ著しく低く、35%となっている。（府県94%）

イ. 和牛改良組合は11組合で、673戸が参加している。

(6) 飼料給与

ア. 肉用牛1頭当たりの飼料作物収穫面積を50年と55年で比較すると、繁殖経営では39aから32aへ、肥育経営では20aから11aへと減少している。

イ. 1頭当たりの肉用牛配合飼料出荷量は、50年度の0.9tから56年度には1.6tに増加している。

ウ. 55年度の肥育牛生産費調査によると、飼料費に占める自給飼料費の割合は、去勢和牛が11.4%（全国9.7%）、乳用肥育おす牛が14.9%（全国3.5%）と全国よりは高いものの極めて低い現状にある。

これらを総合すると、濃厚飼料依存型の飼養体系となっており、特に肥育経営において顕著で、しか

も遂年、飼料自給率が低下の傾向にある、といえよう。

(7) 乳用種経営

ア. 素牛等の価格、特に初生とく価格の変動幅が大きい。

イ. 乳用肥育おす牛の増体に要する費用は、全国平均の89%と少いが、飼料費では殆ど差がなく、また販売価格が低いため、収益性は全国平均を下回っている。

ウ. 収益性が55年度以降低下し、借入金残高が急速に増大したため、57年1月に肉専用種経営を含め、311戸の農家に89億円の負債整理資金の貸付を行なった。

(8) 肉専用種経営

ア. 肥育素牛及び肥育牛の販売価格は、全国平均に比べ大幅に安くなっている。

イ. このため、去勢和牛の増体に要する費用が、ほぼ全国並み(飼料費は89%)であるのに、収益性は全国平均より劣っている。

(9) 肉用牛・牛肉の流通

ア. 肉用牛(成牛)の出荷頭数は、56年で50年の1.5倍、全国シェアは8.4%から11%に高まっており、また道内と殺の割合は、57%から85%へと上昇している。

イ. 肥育牛1頭当たりの枝肉重量は、遂年増大し、50年と56年の比較では、乳用肥育おす牛が314Kgから369Kgに、去勢和牛が341Kgから385Kgへと大きくなっている。

ウ. 枝肉の格付等級は、乳用肥育おす牛の「中」以上、去勢和牛「上」以上の占める割合が高まっており、50年度と56年度を比較すると、それぞれ36.6%から45.7%、11.1%から16.8%になっているが、依然として全国平均を下回っており、特に後者の開きが大きい。

エ. 出荷先別の戸数割合は、肉専用種繁殖経営の肥育素牛では家畜市場が40%と農協等の36%を上回っているが、肥育牛(仕上げ前のもを含む)では家畜市場が17%に過ぎず、農協等が52%等となっている。

オ. と畜場は現在40カ所設置され、小動物換算1日当たりの処理能力は9,165頭となっているが、このうち7カ所の畜産公社営施設が60%を占めている。

また、日本食肉格付協会による牛枝肉の格付割合は年々高まり、56年には62%(全国44%)となっている。

カ. 牛肉の流通経路は様々で極めて複雑になっているが、部分肉での流通が次第に増加し、56年度には79%(全国56%)となっている。

(10) 牛肉の需給

ア. 我が国における牛肉需要は、45~50年度は年率6.8%の伸びで肉類全体の7.8%を下回っていたが、50~55年度では年率6.2%と肉類全体の4.9%を上回り、順調な伸びを示している。

しかし、本道での牛肉家計消費量は、1人年間0.5Kgで、全国平均(2.7Kg)の約20%に過ぎない状態にある。

イ. 一方、牛肉生産量の伸びは、45~50年度が年率3.5%、50~56年度が6%といずれも需要の伸びを下回っており、輸入の増大を招いている。(自給率は45年度89%、50年度81%、55年度72%)

ウ．国は65年度における牛肉の1人当たり年間消費量が53年度の3.3Kgから39～52%増の4.6～5.0Kgと肉類の中で最も高い伸びを示し、国内自給率は71%になるものと見込んでいる。

2. 肉用牛の問題点と課題

本道における肉用牛は、いわば黎明期にあり、多くの問題点と課題を抱えているが、これを体系的に整理してみると別表のようになる。

道としては、肉用牛を本道農業の最大の戦畧部門として位置付け、次のような基本的な考え方に立って、種々の課題を着実に解決しながら、安全で低れんな大衆牛肉を安定的に供給する我が国最大の生産地の形成を目指して、肉用牛の積極的な振興を図る考えであり、その具体的な方策について現在、北海道農業振興審議会で審議願っている。

ア．草資源の豊富な地域においては、放牧を主体とした肉専用種の大規模な專業經營を育成する。

イ．労働力等に余裕のある酪農經營においては、乳用雄子牛の哺育・育成を組み入れ、また稲作經營では、転作飼料作物・稲わら・公共育成牧場等の飼料資源と余剰労働力を有効に活用して主として肉専用種の繁殖部門を取り入れ、更に畑作經營においては、輪作の飼料作物や豆穀・麦稈等は場副産物の有効活用により肉専用種の繁殖又は一貫經營あるいは乳用種の一貫經營を組み入れた經營の複合化を促進する。

ウ．肉用牛の地域一貫生産体制の整備を進め、道内における肥育仕向け率の大幅な向上を図る。

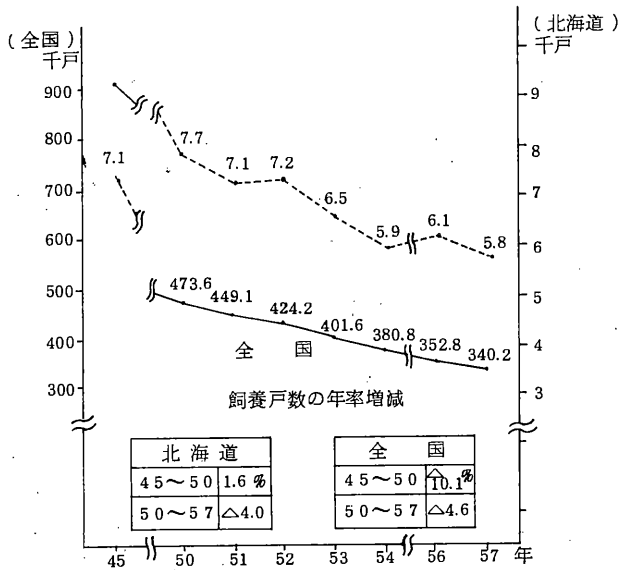
エ．肉用牛の改良・飼料自給率の向上・飼養管理技術の改善・設備投資の抑制等により、牛肉生産コストの徹底した低減を図るとともに、肉用牛・食肉流通の合理化を進め、大衆牛肉の供給体制を確立する。

なお、肥育期間の短縮や粗飼料利用の拡大など本道に適合した22の低コスト飼養管理体系を新たに設定することとしているが、その主なものは別表のとおりである。

中には未だデータが十分揃っていないものや、流通段階での問題点がはっきりしていないものも含まれるが、農家における優良事例と併せて普及していきたいと考えている。

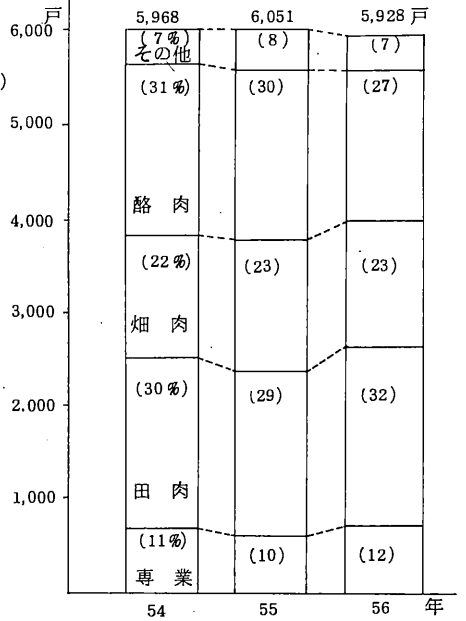
専門家の皆さんの御教示・御指導を期待したい。

第1図 肉用牛飼養戸数の推移



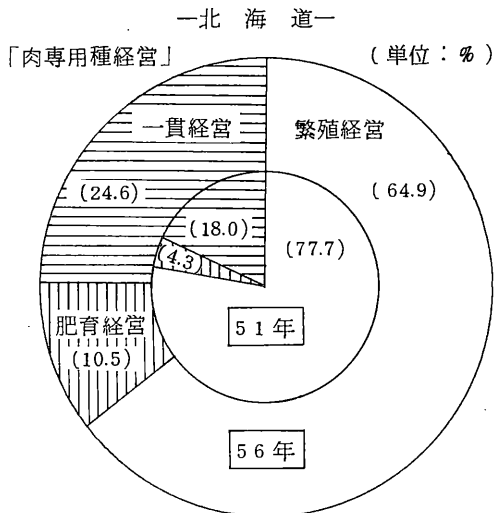
資料：農林水産省「畜産統計」（各年2月1日）

第2図 肉用牛経営形態別戸数割合



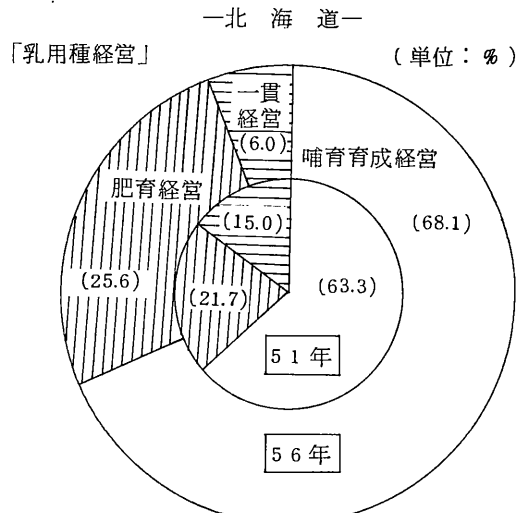
資料：北海道畜産課「肉畜等に関する調査」（各年2月1日）

第3図 飼養形態別飼養戸数割合



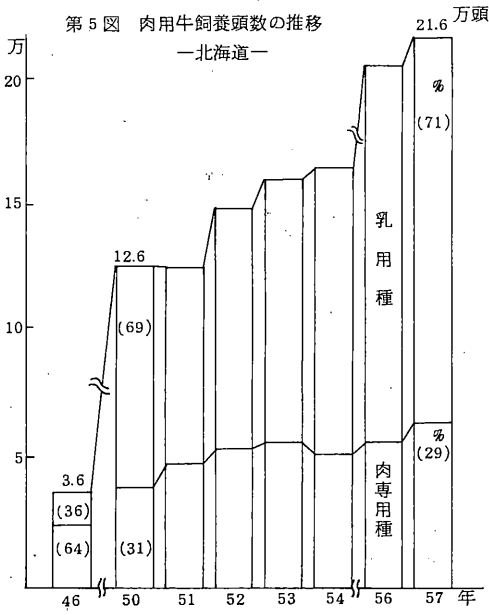
資料：農林水産省「畜産統計」

第4図 飼養形態別飼養戸数割合



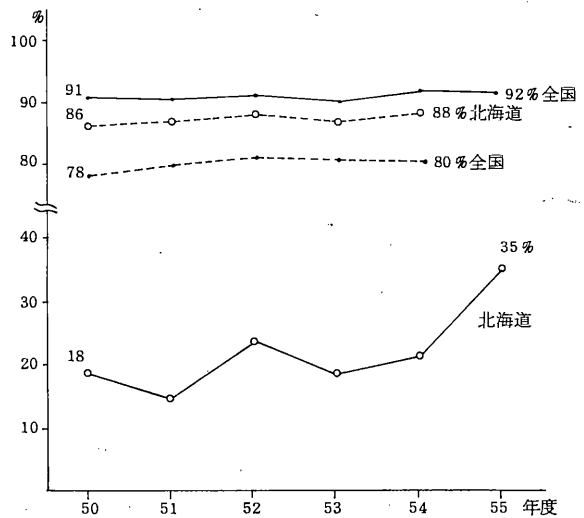
資料：農林水産省「畜産統計」

第5図 肉用牛飼養頭数の推移
—北海道—



資料：農林水産省「畜産統計」

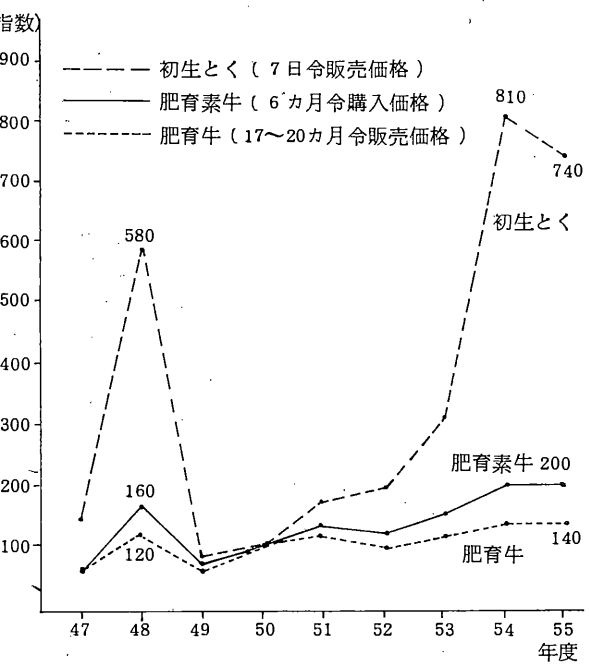
第6図 肉用牛の人工授精普及率及び生産率の推移



資料：農林水産省「家畜改良関係資料」

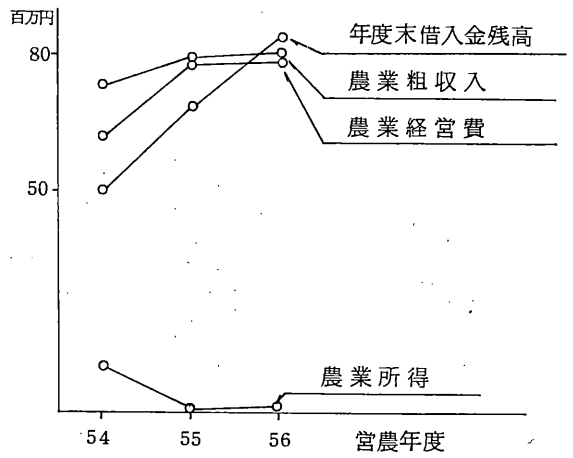
注：—— 人工授精普及率
----- 生産率

第7図 乳用肥育おす牛販売・購入価格の推移
(50年度 = 100)



資料：農林水産省「農村物価賃金統計」

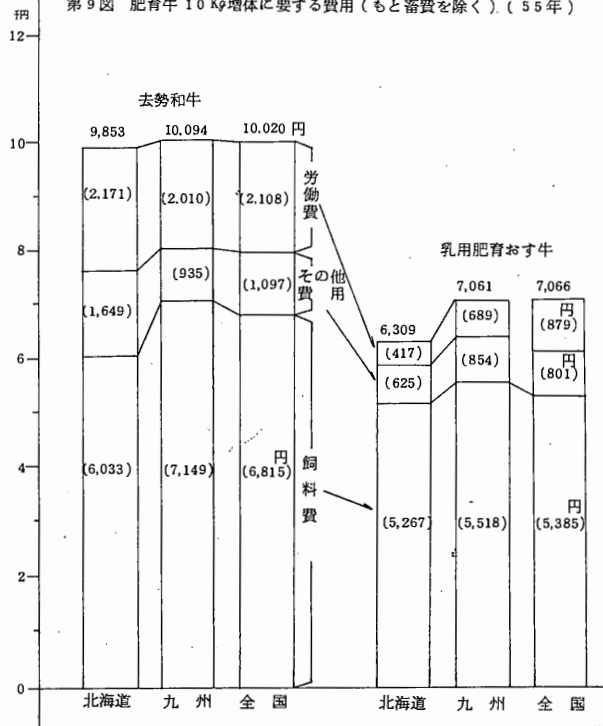
第8図 肉用牛経営の収益性
「乳用種専門経営」



資料：北海道農務部「肉用牛経営実態調査」

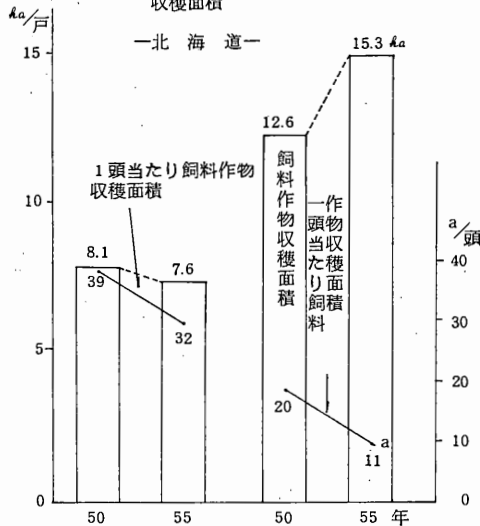
(57年2月調査)

第9図 肥育牛 10 Kg増体に要する費用(もと畜費を除く)。(55年)



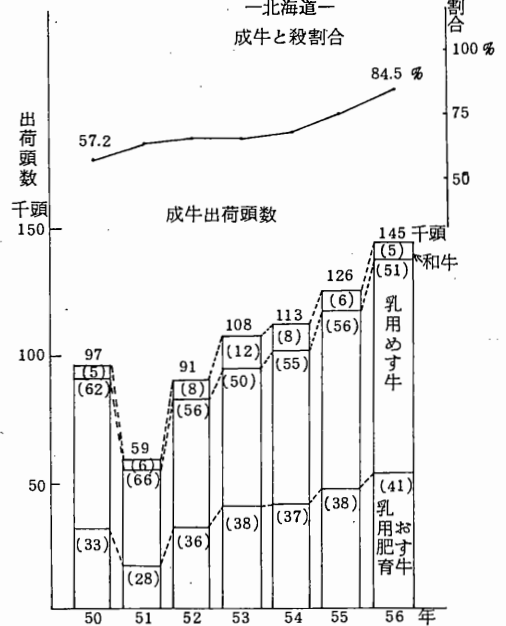
資料：農林水産省「畜産物生産費調査」
注：()内は各費目金額

第10図 肉用牛経営の飼料作物収穫面積



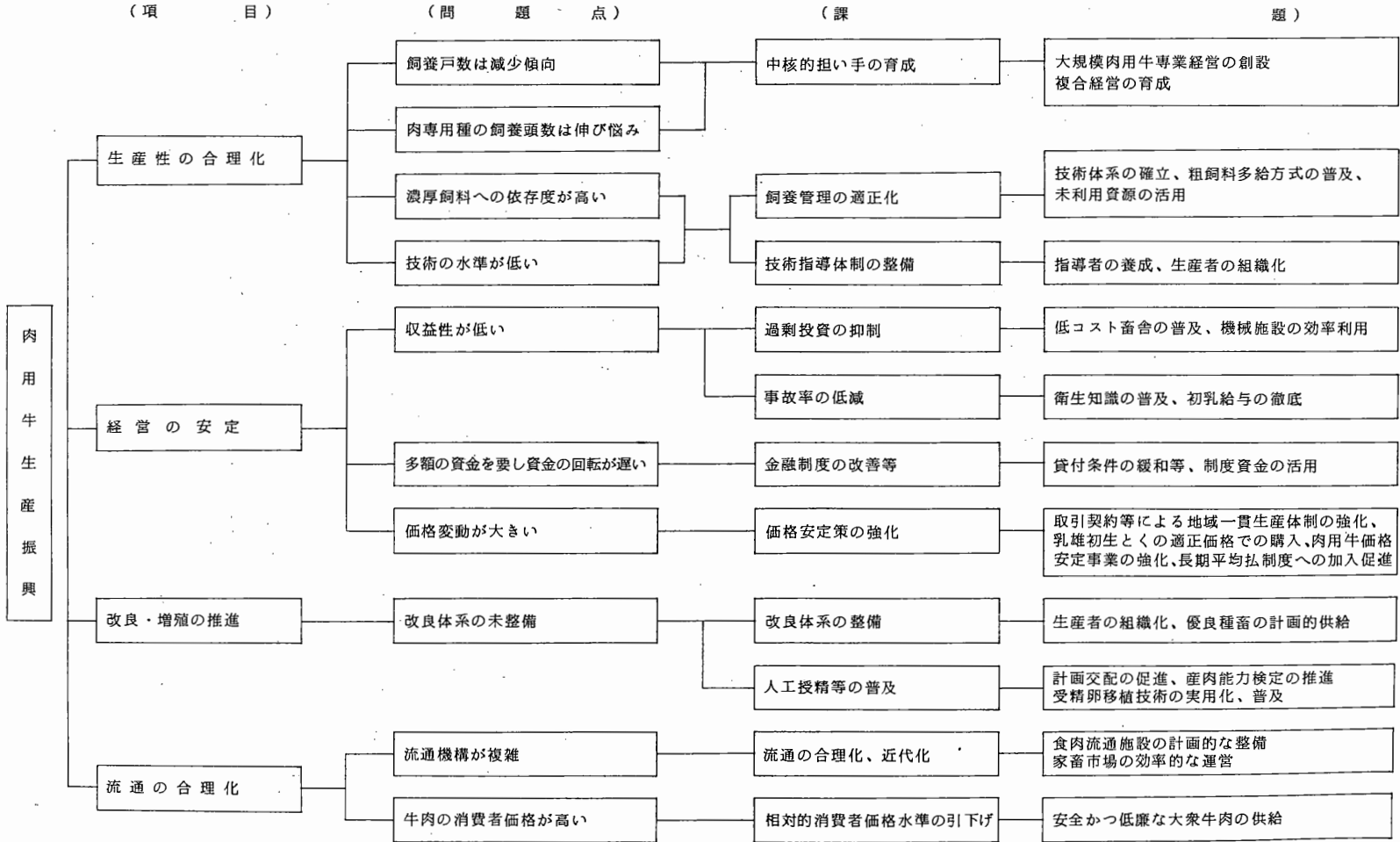
資料：農林水産省「農業センサス」(各年2月1日)

第11図 成牛出荷頭数及び成牛と殺割合の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」

北海道における肉用牛の問題点と課題



低コスト飼養管理体系

区分	飼養体系	飼養区分	仕体重量	自給率 (T D N)	飼料効率 (D・M)	飼料給与量		飼料作物 栽培面積	
						濃厚飼料 Kg	粗飼料 Kg		
肥育種	和		Kg	%		Kg	Kg	a	
		草サイレージ	600	48	0.13	2,334	6,567	牧草 30.2	
			青刈 とうもろこし サイレージ	600	72	0.13	1,276	11,487	牧草 9.9 青刈とうもろこし 17.8
			稲わら サイレージ	600	48	0.12	2,372	7,107	牧草 20.2
	外国種		草サイレージ	580	70	0.12	1,323	13,563	牧草 44.0
			青刈 とうもろこし サイレージ	580	80	0.13	837	15,944	牧草 27.9 青刈とうもろこし 11.7
乳用種	和		Kg	%		Kg	Kg		
		草サイレージ	650	46	0.13	2,723	9,643	牧草 34.9	
			青刈 とうもろこし サイレージ	630	66	0.13	1,448	9,369	牧草 9.3 青刈とうもろこし 17.0
		濃厚飼料	600	10	0.17	3,244	567	牧草 6.2	
繁殖種	和								
		草サイレージ		90		245	13,800	牧草 46.6	
			青刈 とうもろこし サイレージ		90		241	13,390	牧草 34.0 青刈とうもろこし 5.1
			稲わら サイレージ		90		245	14,507	牧草 36.3
	外国種		草サイレージ		95		144	16,356	牧草 53.9
			青刈 とうもろこし サイレージ		95		144	15,915	牧草 40.0 青刈とうもろこし 7.3